

農業経営改善計画書作成の 手引き（畜産：肉用牛繁殖）



平成27年3月

はじめに

当計画書は、経営改善の内容（資金借入、施設・機械導入、規模拡大など）を数値に反映させ、Excelソフトを用いてシミュレーションするものです。

最小限の入力データで10年単位の収支計画、資金運用が作成できるよう設計してあります。

農業を取り巻く環境は厳しいことから、生産経費、売上高は厳しく試算し、**実現可能な計画書を農業者自ら作成し**経営改善に活かしましょう。

経営改善計画書の構成

表紙

①経営概況

②家畜飼養計画実績及び計画

③農業経営改善計画の種目

④肉用牛（繁殖）経営損益計算算出表

⑤農業経営改善計画（中間総括表）

⑥所有固定資本償却費・修繕費

⑦家計費改善計画

⑧償還計画表

⑨農家収支計画（最終総括表）

資金運用計画

■作成の流れ

- ・『①経営概況』など、それぞれシートに分かれています。
- ・各シートの項目を順に入力します。
- ・『⑤中間総括表』や『⑨農家収支計画（最終総括表）』の経営収支（差引余剰など）を確認します。
- ・実績と計画の差が大きい、計画の収支がマイナスになった場合などは、計画の各項目の見直しなどを行います。

■作成の留意点

- 黄色のセルのみ入力します。
- 行、列、セルの追加及び削除は行わないで下さい。

■必要な主な資料

- 決算書（過去3年力年分）
- 既往借入償還表及び残高証明書など
- 生産実績に関する資料（出荷証明書など）
- 繁殖台帳

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

① 経営概況を整理しよう！

▶ 入力シート名：① 経営概況

まずは、現在の経営概況から順に沿って入力します。
固定資産（土地）については、『資産証明書』などを参考にしましょう。
固定資産の建物・施設や車両などは、ここでの入力はありません。

計画作成日

作成日：平成27年1月29日

1. 経営概況

(1) 経営体の概要

	氏 名	生 年 月 日				年 齢	続 柄	農業従事 日数(日)	農 外 就 労		農 外 所 得 (円)
									職 種	従事日数	
家族 構 成	石垣 福波	S	46	10	17	44	本人	300			
	石垣 ゆみこ	S	47	11	5	43	妻	200			
	石垣 茂勝	H	14	12	13	13	長男				
	石垣 かよこ	H	18	3	3	9	長女				

経営体の概要

(2) 経営規模

作 目	総 飼 養 頭 羽 数			備 考
	成 畜	育 成 畜 等		
肉用牛繁殖	70	41	29	
合 計	70	41	29	

経営規模

(4) 固定資産の状況

地 目		地 番	所有面積(㎡)	うち貸付地	先順位	評価額
土 地	田					
	草地	〇〇〇ー〇〇	5,000.00			
	放牧地	××ー××	3,000.00			
	畑	△△△ー△△	3,000.00			

固定資産の状況

②-1 飼養計画を整理しよう！（過去のデータを入力する）

次に、過去3年間の生産状況を確認します。

下表を参考に成雌牛頭数や生産頭数などを整理しましょう。

年度		3年前	2年前	前年実績	平均
成雌牛	期首頭数	30	35	40	
	更新（販売）頭数	3	3	3	
子牛	生産頭数	25	30	35	
	出荷頭数	30	20	25	
	事故頭数	1	1	1	
	保留頭数	6	5	5	
成雌牛更新率（%）		10.0	8.6	7.5	8.7
子牛生産率（%）		83.3	85.7	87.5	85.5
子牛事故率（%）		4.0	3.3	2.9	3.4
育成牛への振向け率（%）		20.0	14.3	12.5	15.6

成雌牛（初回種付け後の雌牛で、経産牛だけでなく未経産牛も含む）の頭数、更新（販売）頭数

子牛の生産頭数、事故頭数など

自家保留した頭数

自動計算されます

過去3年分の更新率（%）、生産率（%）、事故率（%）、振向け率（%）がわかったら、シートに入力します。

また、3年前の期首の成雌牛や子牛の頭数を入力します。

（この時点では各頭数に若干誤差が出ますがそのまま続けます。）

▶入力シート名：②飼養計画

2. 家畜飼養実績及び計画

(1) 肉用牛年次別飼養実績及び計画

氏 名：石垣 福波

年度		3年前実績	2年前実績	前年実績	1年(作成年)	2年目	3年目
項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
成雌牛	期首頭数	30				40	46
	外部導入頭数						
	育成牛からの繰入頭数	4	5	4	4	6	6
	更新牛販売頭数	3	2	2	0	0	0
	更新率（%）	10%	9%	8%			
子牛	期末頭数	31	34	36	40	46	52
	期首頭数	30				22	25
	外部導入頭数						
	生産頭数	24	26	29	30	34	39
	生産率（%）	83%	86%	88%			
牛	事故廃用頭数	1	1	1	1	0	0
	事故率（%）	4%	3%	2%	3%	0%	0%
	販売頭数	29	20	22	23	23	27
	育成牛への振り向け頭数	6	4	4	5	6	6
	育成牛への振向け率（%）	20%	14%	13%	15%	15%	15%
期末頭数		18	19	21	22	25	29
期末残頭数率（%）		子牛期間 9ヶ月	75%	75%	75%	75%	75%

成雌牛頭数を入力

子牛頭数を入力

過去の生産状況から各項目の割合（%）を入力します。

②-2 飼養計画を整理しよう！（過去のデータ入力：続き）

成雌牛、育成牛を外部導入した場合は頭数を入力します。（例ではH24年、H25年に成雌牛を外部導入した場合を入力しています）

▶入力シート名：②飼養計画

2. 家畜飼養実績及び計画

(1) 肉用牛年次別飼養実績及び計画

氏 名：石垣 福波

年度 項目		3年前実績 平成24年度	2年前実績 平成25年度	前年実績 平成26年度	成雌牛の外部導入頭数		
成雌牛	期首頭数	30	35	40	45	40	39
	外部導入頭数	4	3				
	育成牛からの繰入頭数	4	5	5	6	7	7
	更新牛販売頭数	3	3	3	0	0	0
	更新率（％）	10%	9%	8%			
子牛	期末頭数	35	40	42	48	55	62
	期首頭数	30	18	21	26	26	30
	外部導入頭数						
	生産頭数	24	29	35	35	40	46
	生産率（％）	83%	86%	88%	85%	85%	85%
	事故廃用頭数	1	1	1	2	2	2
	事故率（％）	4%	3%	2%	3%	3%	3%
	販売頭数	29	20	24	27	27	32
	育成牛への振り向け頭数	6	5	5	6	7	8
	育成牛への振り向け率（％）	20%	14%	13%	15%	15%	15%
牛	期末頭数	18	21	26	26	30	34
	期末残頭数率（％） 子牛期間 9ヶ月	75%	75%	75%	75%	75%	75%

各頭数が実際と合っているか確認します。

頭数にずれが生じた場合、各率（％）の数字を調整します。

▶入力シート名：②飼養計画

2. 家畜飼養実績及び計画

(1) 肉用牛年次別飼養実績及び計画

氏 名：石垣 福波

年度 項目		3年前実績 平成24年度	2年前実績 平成25年度	前年実績 平成26年度	1年(作成年) 平成27年度	2年目 平成28年度	3年目 平成29年度
成雌牛	期首頭数	30	35	40	42	48	55
	外部導入頭数	4	3				
	育成牛からの繰入頭数	4	5	5			
	更新牛販売頭数	3	3	3			
	更新率（％）	10%	9%	8%			
子牛	期末頭数	35	40	42	48	55	62
	期首頭数	30	18	22	26	26	30
	外部導入頭数						
	生産頭数	25	30	35	35	40	46
	生産率（％）	84%	87%	88%	85%	85%	85%
	事故廃用頭数	1	1	1	2	2	2
	事故率（％）	4%	3%	2%	3%	3%	3%
	販売頭数	30	20	25			
	育成牛への振り向け頭数	6	5	5	6		
	育成牛への振り向け率（％）	20%	14%	13%	15%	15%	15%
牛	期末頭数	18	22	26	26	30	34
	期末残頭数率（％） 子牛期間 9ヶ月	75%	75%	75%	75%	75%	75%

波線の部分の頭数が実際の各項目の頭数と誤差がないかを確認します。

頭数に誤差が出た場合、項目の割合（％）を修正します。

②-3 飼養計画をたてよう！（今後の計画をたてる）

これから、今後10年間の飼養計画を作成します。
計画はこれまでの実績を参考に、今後の生産管理技術等を踏まえて作成します。
以下の各項目のポイントについて確認しましょう。

■子牛生産率(%)

「成雌牛1頭当たり子牛生産頭数」の割合のこと。
生産率は繁殖成績、特に分娩間隔に影響されます。

現在の分娩間隔、未經産牛の頭数と初産月齢、最終分娩から廃用・更新までの期間を勘案して、生産率を設定します。

また、成雌牛の導入で規模拡大を行った場合は、分娩頭数が増えるまでに時間がかかるため、生産率が一時的に下がることに注意します。

[県指標：92%以上]

85%以上は
目指したいね！



■子牛事故率(%)

「正常産子のうち、出荷・保留前に死亡や
廃用した頭数」の割合のこと。事故率は飼養管理方法、
牛舎環境や衛生管理、疫病等の侵入・発生等に影響されます。

子牛事故率が高い場合は原因を解明し、今後の事故率を設定します。

[県指標：2%以内]

3%以内に
抑えたいな～



■成雌牛更新率(%)

「成雌牛のうち、廃用・更新した頭数」の割合のこと。

成雌牛は年齢や繁殖成績等により更新されます。更新率は成雌牛の年齢構成や分娩状況を確認して設定します。

[県指標：15%以下（参考 10%：廃用時11歳（8～10産）、15%：廃用時8歳（6～7産））]

更新は計画的に！



■育成牛への振向け率（自家保留率）(%)

「生産された雌子牛の中から繁殖仕向けに
保留した頭数の割合」のこと。自家保留率は成雌牛更新率や
規模拡大の計画と販売頭数を勘案して設定します。

自家保留・導入をする場合、同一年齢の繁殖牛を一度に導入すると牛群の年齢構成に偏りが出るので注意します。

[目安：10～20%程度]

保留・導入も
計画的に！



I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

②-3 飼養計画をたてよう！（今後の計画：続き）

では、実際に各項目について計画（目標）数値をたてましょう。
目標値は現状を踏まえて、実現可能な数値にしましょう。

子牛生産率(%)

個人の生産管理技術によるものが多く、実績を元に、技術改善等で計画での生産率が高くなるか等の検討をします。

（例では過去3年の平均（85.5%）と成雌牛の導入を勘案して、生産率85%で作成してみます）

子牛事故率(%)

個人の生産管理技術によるものが多く、実績を元に、技術改善等で計画での事故率が低くなるか等の検討をします。

（例では過去3年間の平均（3.4%）から、事故率3%で作成してみます）

成雌牛更新率(%)

実績は低い場合であっても、今後は計画的な更新は必要と考え、まずは県指標（10%：廃用時11歳（8～10産））で作成してみます。

その後実際の更新の必要性（成雌牛の年齢など）で更新率を調整します。

例えば当年に成雌牛を外部導入した場合、導入牛（若齢牛）の更新は10年前後からと考えられるので、前半年度の更新率は低めに、後半年度は高め設定するなどの割合を調整します。

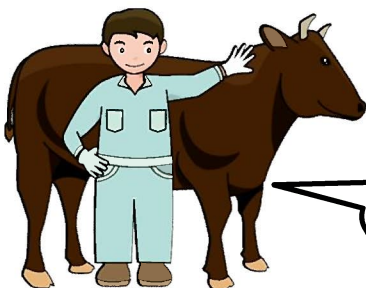
（例では、6年目まで8%、7年目から10%で計画してみます。）

育成牛への振向け率 （自家保留率）(%)

まずは目安（20%）で作成します。

その後、今後の計画で自家保留で増頭をする場合は高めに、販売頭数を多めにする場合は低めにするなど、振向け率を調整します。

（例では、3年目まで15%、4年目から20%で計画してみます）



自分の牛と指導員・普及員と
相談して決めようかな。

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

②-3 飼養計画をたてよう！（今後の計画：続き）

では、今後10年間の飼養計画を作成します。
 これまでに検討した更新率、生産率、事故率、振向け率などの計画（目標）値を入力します。
 また、外部導入を計画する場合は頭数を入力します。（例では10頭の成雌牛の導入を計画としています）

▶入力シート名: ②飼養計画

2. 家畜飼養実績及び計画											
(1) 肉用牛年次別飼養実績及び計画											
氏名：石垣 福波 作成日：平成27年1月29日 単位：頭											
年度 項目		1年(作成年) 平成27年度	2年目 平成28年度	3年目 平成29年度	4年目 平成30年度	5年目 平成31年度	6年目 平成32年度	7年目 平成33年度	8年目 平成34年度	9年目 平成35年度	10年目 平成36年度
成 雌 牛	期首頭数	42				68	76	84	92	100	109
	外部導入頭数	10									
	育成牛からの繰入頭数	6	7	8	10	13	14	16	18	20	21
	更新牛販売頭数	3	4	4	4	5	6	7	8	9	10
	更新率(%)	8%	8%	8%	8%	8%	8%	10%	10%	10%	10%
子 牛	期末頭数	55	58	62	68	76	84	92	100	109	120
	期首頭数	26	26	34	36	39	42	48	53	58	63
	外部導入頭数										
	生産頭数	35	46	49	52	57	64	71	78	85	92
	生産率(%)	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%
牛	事故廃用頭数	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3
	事故率(%)	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%
	販売頭数	27	28	37	35	39	41	47	52	57	62
	育成牛への振り向け頭数	6	8	8	12	13	15	16	18	20	21
	育成牛への振り向け率(%)	15%	15%	15%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%
牛	期末頭数	26	34	36	39	42	48	53	58	63	69
	期末残頭数率(%)	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%

飼養計画が整理できたら、各項目の頭数や割合(%)等の数値を確認します。

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

③農業収支を計画しよう！（農業経営改善計画の種目別内訳）

粗収入の項目では、実績の単価を入力し、それを元に今後10年間の計画を作成します。

計画の販売単価は、本人の実績、地域の実情、今後の生産管理技術向上などを考慮して、実現可能で無理のない価格に設定します。

■子牛販売単価(円)

子牛販売単価はそのときの経済情勢等に左右されますが、地域（市場）の平均価格を比べて差がある場合は原因を解明します。

今後の単価は牛群の改良、市場性の高い種牛の種付け、適正な飼養管理等などを勘案して設定します。

3. 農業経営改善計画の種目氏名：石垣 福波						
【種目】肉用牛						
年度	項目	前年実績	1年(作成年)	2年目	3年目	4年目
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
粗収入	子牛販売収入	10,500,001	10,800,000	11,200,000	14,800,000	14,000,000
	単価	420,000	400,000	400,000	400,000	400,000
	育成牛販売収入	0	0	0	0	0
	単価					
	肥育牛販売収入	0	0	0	0	0
	単価					
	経産牛販売収入	297,000	300,000	400,000	400,000	400,000
	単価	99,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	堆肥等販売収入					
	販売量(kg)					
	粗飼料販売収入					
	販売量(kg)					
	営業外収入	100,000	475,000	475,000	475,000	475,000
	農作業受託収入					
	その他	0	275,000	275,000	275,000	275,000
入	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
	共済金	100,000	200,000	200,000	200,000	200,000
粗収入計(A)		10,897,001	11,575,000	12,075,000	15,675,000	14,875,000

▶ 入力シート名:③農業経営改善の種目

作成日:

過去実績（42万円）から、
計画単価を入力します。

過去実績（9.9万円）から、
計画単価を入力します。

その他収入があれば入力します。

事故牛に対する共済金（例では
10万円/頭）を入力します。

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

③農業収支を計画しよう！（農業経営改善計画：続き）

経営費の項目では、申告書等を参考に実績の経費を入力します。今後の計画の参考にするため、過去3年分を入力することが望ましいです。

▶ 入力シート名: ③農業経営改善の種目

3. 農業経営改善計画の種目氏名：石垣 福波

年度	種目	前年実績	1年(作成年)	2年目	3年目	1頭当たり	
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	繁殖牛	肥育牛
経費	種付け料	500,000				12,500	
	導入牛						
	購入飼料費	2,144,136				53,603	0
	診療・医薬品費	120,000	126,000	144,000	165,000	3,000	0
	電力・水道費	95,600	100,380	114,720	131,450	2,390	0
	燃料費	75,229	78,991	90,275	103,440	1,881	0
	その他の生産費※1	784,666	823,899	941,599	1,078,916	19,617	0
	販売経費	248,228	260,639	297,873	341,313	6,206	0
	一般管理費	515,560	541,338	618,672	708,894	12,889	0
	営業外費用※2	212,000	222,600	254,400	291,500	5,300	0
経営費計(B)		4,695,418	4,930,189	5,634,502	6,456,200	117,385	0
農業所得(A)-(B)		6,201,583	6,344,811	5,640,498	6,818,800		

※1：草地管理に係る肥料費、草地更新費及び小農具費、消耗品費、諸材料費
 ※2：小作料、支払利息以外の営業外費用の合計を入力する。

営業外費用では農業にかかる租税公課や様式にある項目外にかかる費用をいれます。

【参考：経営費内訳】

種付け料	精液代、ボンベ代、種付手数料
導入牛費	導入牛1頭当たりの単価
購入飼料費	飼料費、購入飼料費
診療・医薬品費	薬代、診療費
電力・水道費	電気代、水道代
燃料費	ガソリン代、重油代、ガス代
その他の生産費※1	草地管理にかかる肥料費、草地更新費、小農具費、消耗品費、諸材料費、その他経費（賃料料金など）
販売経費	市場手数料、上場手数料、登記料
一般管理費	共済掛金、自動車税、固定資産税
営業外費用※2	小作料、支払利息以外の営業外費用

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

③-2 農業収支を計画しよう！（農業経営改善計画：続き）

肉用牛以外の収入（堆肥やロールの販売等）があれば入力します。

▶ 入カシート名：③農業経営改善の種目

単価と販売収入を入力します

【種目 2：飼料販売】

年度		1年(作成年)	2年目	3年目	4年目
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
粗収入	販売収入	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000
	単価	6,500	6,500	6,500	6,500
	販売収入				
	単価				
経営費	販売収入				
	粗収入計(A)	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000
	燃料費	825,000	825,000	825,000	825,000
	肥料費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
費	資材費	500,000	500,000	500,000	500,000
	経営費計(B)	2,325,000	2,325,000	2,325,000	2,325,000
農業所得(A)-(B)		275,000	275,000	275,000	275,000

9年目	10年目	
平成35年度	平成36年度	
2,600,000	2,600,000	100個/5ha*5回
6,500	6,500	6,500円/個
2,600,000	2,600,000	
825,000	825,000	1,500L/5ha*5回
1,000,000	1,000,000	
500,000	500,000	
2,325,000	2,325,000	
275,000	275,000	

上記収入に必要な経営費を入力します

別の品目（さとうきびなど）を複合経営している場合は、別途「農業経営改善の作物別内訳」を作成します。

（今回の例では、畜産のみとし作成手法は割愛します）

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

④損益計算書を確認しよう！（肉用牛経営損益計算算出表）

当初のシート各項目の単価等は、県指標が入力されています。
各項目の単価、施用量、機械等の稼働時間は本人の実績、地域の実情、今後の生産管理計画等を考慮し数値を修正します。

▶ 入カシート名：④-1肉用牛（繁殖）経営損益計算算出表

4-1. 肉用牛（繁殖）経営損益計算算出表									
		氏 名：石垣 福波		作成日：平成27年1月29日					
項 目	金額	成雌牛1頭	子牛販売頭数	子牛単価					
子牛販売収入	24,800,000								
そ の 他	0								
消 費 税	1,984,000								
計	26,784,000	245,700							
濃厚飼料費	5,842,770	1,771,686	94	270	70	690,134	16	603	70
粗飼料費	0	0	94	1,460		0	16	1,373	
肥 料 費	1,248,000	11,450	5.00	130	1,920				
草地更新費	0	0	96,000	0.17					
委 託 費	0	0	80	4,000					
診療医薬品費	327,000	3,000	109	3,000					
電力・水道費	260,510	2,390	229,772	109	2,108	30,738	109	282	
燃 料 費	205,000	1,881	205,000	500	5	82	0	5	82
種 付 料	1,362,500	12,500	1,090,000	109	10,000	272,500	55	5,000	

草地面積などから、購入飼料が必要となれば入力します。

実際の給与量や単価に合わせて修正します。

■購入飼料費(円)

購入飼料費（濃厚飼料と粗飼料）は経営費に占める割合が大きく、購入飼料費を圧縮することが、経費節減・所得向上につながります。

購入飼料費を低減するために、所有する草地面積や管理状況を確認し自給飼料（粗飼料）の有効活用を検討します。



I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

⑤農業経営改善計画（中間総括表）を確認しよう！

これまで入力したシートから、粗収入や経営費が積算されています。
ここでは、これまで経費に含めてなかった雇用費や小作料を入力します。

▶ 入力シート名：⑤農業経営改善計画（中間総括表）

5. 農業経営改善計画（中間総括表）						
石垣 福波		作成日：平成27年1月29日				単位：円
項 目	年 度	実績	1年次	2年次	3年次	4年次
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
粗収入	子牛販売収入	10,500,001	10,800,000	11,200,000	14,800,000	14,000,000
	育成牛販売収入	0	0	0	0	0
	肥育牛販売収入	0	0	0	0	0
	経産牛販売収入	297,000	300,000	400,000	400,000	400,000
	堆肥等販売収入	0	0	0	0	0
	粗飼料販売収入	0	0	0	0	0
	営業外収入	100,000	475,000	475,000	475,000	475,000
	粗収入(A)	10,897,001	11,575,000	12,075,000	15,675,000	14,875,000
経費	種付け料	500,000	525,000	687,500	725,000	775,000
	導入牛	0	0	0	0	0
	購入飼料費	2,144,136	2,251,343	2,948,187	3,108,997	3,323,410
	診療・医薬品費	120,000	126,000	165,000	174,000	186,000
	電力・水道費	95,600	100,380	131,450	138,620	148,180
	燃料費	75,229	78,991	103,440	109,083	116,606
	建物・施設	480,000	480,000	480,000	480,000	480,000
	減価償却費	2,421,430	2,421,430	1,864,287	1,864,287	642,857
	家畜					
	修繕費	387,263	387,263	387,263	387,263	387,263
	その他の生産費	784,666	823,899	1,078,916	1,137,766	1,216,232
	雇用労働費	960,000	960,000	960,000	960,000	960,000
	販売経費	248,228	260,639	341,313	359,930	384,753
	一般管理費	515,560	541,338	708,894	747,561	799,117
営業外費用	小作料	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
	支払利息	25,000	20,000	50,000	45,000	40,000
	その他	212,000	222,600	291,500	307,400	328,600
	経営費計(B)	9,119,111	9,348,882	10,347,750	10,694,907	9,938,018
農業所得(A)-(B)=(C)		1,777,890	2,226,118	1,727,250	4,980,093	4,936,982

雇用費を入力します。

小作料（借地料）を入力します。

⑥固定資本償却費・修繕費整理表を整理しよう！

機械、施設などの固定資本について、現在所有している物と今後購入予定している物を入力します。『固定資産台帳』や『法定耐用年数表』を参考にしましょう。

▶ 入力シート名：⑥所有固定資本償却費・修繕費整理表

6-1. 所有固定資本償却費・修繕費整理表

(1) 大 農 具

氏名：石

現在所有している大農具（機械・車両類）を入力します。

名 称		台数・面積	型式・構造	新 調 価 格 ①	取得年度 (西暦)	残 価 (%)	残価(1-②/100)	年数④	
大 農 具	現 況	トラクター	1		4,000,000	2008		4,000,000	7
		ディスクモア-	1		1,400,000	2008		1,400,000	7
		オートラップ	1		3,000,000	2008		3,000,000	7
		軽トラック	1		1,100,000	2008		1,100,000	4
		ブロードキャスター	1		500,000	2010		500,000	7
		グリッパー	1		1,200,000	2010		1,200,000	7
		ロールベアラー	1		5,200,000	2010		5,200,000	7
		タイヤシャボ	1	中古	1,200,000	2010		1,200,000	7
		集草機	1		450,000	2010		450,000	7
	現 況 償 却 費 合 計								
新 規 購 入 (更 新)	トラクター	1		4,500,000	2015		4,500,000	7	
							-		
							-		
目 標 償 却 費 合 計									

新 規 購 入 予 定 の 大 農 具 を 入 力 し ます。

新規購入予定の大農具を入力します。

「(2) 施設」のシートも同様に入力します。

価格、取得年度、耐用年数、修繕費計数（例では0.1（年償却費の10%）に設定）を入力すると、年償却費、年間修繕費が計算され、各シートにリンクされます。

（6-2 年度別償却推移表などは入力の必要はありません）

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

⑦家計費の計画をたてよう！

一人当たりの家計費、家族人数（内学生数）を入力します。

▶ 入力シート名：⑦家計費

7. 家計費改善計画									
作成日：平成27年1月29日									
項目 \ 年度	3年次	4年次	5年次	6年次	7年次	8年次	9年次	10年次	一人当たり
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	
食費	960,000	960,000	960,000	960,000	960,000	960,000	960,000	960,000	240,000
居住費	840,000	840,000	840,000	840,000	840,000	840,000	840,000	840,000	210,000
被服費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	25,000
教育費	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	300,000
水道光熱費	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000	45,000
保険衛生費	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	20,000
共済掛金	140,000	140,000	140,000	140,000	140,000	140,000	140,000	140,000	35,000
娯楽交際費	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	30,000
その他	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	30,000
合計	3,140,000	3,140,000	3,140,000	3,140,000	3,140,000	3,140,000	3,140,000	3,140,000	935,000
家族人数	4			4			4		
(内学生)	(2)			(2)			(2)		

※【その他】には項目にないもの（通信費、交通費、ペットなど）を入力します。
日用品については、食費に含めるまたは【その他】で入力することも可能です。

家族人数、うち学生数を入力します。

家計費は本人の実績、地域の実情などにより入力します。
また、離島から進学のため仕送り・下宿費などがあれば適宜入力します。

実績をもとに入力するのが望ましいですが、難しい場合は『家計費シミュレーション』を参考にすることもできます。

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

⑧農家収支計画（最終総括表）を確認しよう！

これまで入力したものから、収入と経営費が表示されています。
ここでは、農外所得や年金、租税公課などを入力します。

9. 農家収支計画（最終総括表）

▶ 入力シート名: ⑨農家収支計画（最終総括表）

対象者氏名: 作成日 平成27年1月29日

年度		前年実績 平成26年度	1年(作成年) 平成27年度	2年目 平成28年度	3年目 平成29年度	4年目 平成30年度
農業収入(A)		10,897,001	11,575,000	12,075,000	15,675,000	14,875,000
子牛販売収入	経営規模	22	26	26	34	36
	販売量	25	27	28	37	35
	売上高	10,500,001	10,800,000	11,200,000	14,800,000	14,000,000
育成牛販売収入	経営規模	2	2	2	3	3
	販売量	0	0	0	0	0
	売上高	0	0	0	0	0
肥育牛販売収入	経営規模	0	0	0	0	0
	販売量	0	0	0	0	0
	売上高	0	0	0	0	0
種産牛販売収入	経営規模	40	42	55	58	62
	販売量	3	3	4	4	4
	売上高	297,000	300,000	400,000	400,000	400,000
増肥等販売収入	経営規模					
	販売量	0	0	0	0	0
	売上高	0	0	0	0	0
粗飼料販売収入	経営規模					
	販売量	0	0	0	0	0
	売上高	0	0	0	0	0
その他(営業外収入)		100,000	475,000	475,000	475,000	475,000
農業経営費(B)		9,119,111	9,348,882	10,347,750	10,694,907	9,938,018
原材料費		3,719,631	3,905,613	5,114,493	5,393,465	5,765,428
施設・機械費		3,288,693	3,288,693	2,731,550	2,731,550	1,510,120
減価償却費(C)		2,901,430	2,901,430	2,344,287	2,344,287	1,122,857
家畜の減価償却費		0	0	0	0	0
販売経費		248,228	260,639	341,313	359,930	384,753
一般管理費		515,560	541,338	708,894	747,561	799,117
雇用労賃		960,000	960,000	960,000	960,000	960,000
支払利息		25,000	20,000	50,000	45,000	40,000
支払地代		150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
その他		212,000	222,600	291,500	307,400	328,000
農業所得 A-B=(D)		1,777,890	2,226,118	1,727,250	4,980,093	4,936,982
農外所得(E)		600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
年金被贈等(F)						
農家総所得 D+E+F=(G)		2,377,890	2,826,118	2,327,250	5,580,093	5,536,982
家計費(H)		2,140,000	2,140,000	2,140,000	2,140,000	2,140,000
租税公課(I)		10,600	10,600	10,600	10,600	10,600
償還源 C+G-H-I=(J)		2,128,720	2,576,948	1,520,937	4,773,780	3,509,230
償還金(元本)(K)		1,289,000	1,289,000	1,289,000	1,289,000	2,539,000
農外支払利息(L)		224,865	209,874	194,883	179,892	164,901
差引余剰 J-K-L=(M)		614,855	1,078,074	37,054	3,304,888	805,338
施設・機械等の設備投資			0	0	0	0
農業負債	経済	0	0	0	0	0
	信用	2,500,000	2,000,000	11,500,000	11,000,000	10,500,000
農外・生活負債		11,835,000	11,046,000	10,257,000	9,468,000	8,679,000
計		14,335,000	13,046,000	21,757,000	20,468,000	19,179,000

農外所得（妻のパート給与など）
や年金収入があれば入力します

農業経費以外の租税公課
（所得税や国保税、住居
の固定資産税、など）を
入力します

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

V 農家収支

⑧差引余剰を確認しよう！

農家収支計画（最終総括表）は、全体の収支を見るための表です。
農業所得（D）に、農外所得（E）や年金等（F）を加え、決算内にある減価償却費を除き、家計費（H）と税金（I）を引くと償還財源（J）となります。

償還財源から新規借入を含めた償還金を計算すると、差引余剰（M）となります。これが、増えていけば家計費を賄っていける、経営が改善されていくという目安になります。

9. 農家収支計画（最終総括表）

入力シート名: ⑧農家収支計画(最終総括表)

対象者氏名: 作成日 平成27年1月29日

年 度	前年実績 平成26年度	1年(作成年) 平成27年度	2年目 平成28年度	3年目 平成29年度	4年目 平成30年度
項 目					
農 業 経 営 費 (B)	9,119,111	9,348,882	10,347,750	10,694,907	9,938,018
原 材 料 費	3,719,631	3,905,613	5,114,493	5,393,465	5,765,428
施 設 ・ 機 械 費	3,288,693	3,288,693	2,731,550	2,731,550	1,510,120
減価償却費(C)	2,901,430	2,901,430	2,344,287	2,344,287	1,122,857
家 畜 の 減 価 償 却 費	0	0	0	0	0
販 売 経 費	248,228	260,639	341,313	359,930	384,753
一 般 管 理 費	515,560	541,338	708,894	747,561	799,117
雇 用 労 賃	960,000	960,000	960,000	960,000	960,000
支 払 利 息	25,000	20,000	50,000	45,000	40,000
支 払 地 代	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
そ の 他	212,000	222,600	291,500	307,400	328,600
農 業 所 得 A-B=(D)	1,777,890	2,226,118	1,727,250	4,980,093	4,936,982
農 外 所 得 (E)	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
年 金 被 贈 等 (F)					
農 家 総 所 得 D+E+F=(G)	2,377,890	2,826,118	2,327,250	5,580,093	5,536,982
家 計 費 (H)	3,140,000	3,140,000	3,140,000	3,140,000	3,140,000
租 税 公 課 (I)	10,600	10,600	10,600	10,600	10,600
償 還 財 源 C+G-H-I=(J)	2,128,720	2,576,948	1,520,937	4,773,780	3,509,239
償 還 金 (元 本) (K)	1,289,000	1,289,000	1,289,000	1,289,000	2,539,000
農 外 支 払 利 息 (L)	224,865	209,874	194,883	179,892	164,901
差 引 余 剰 J-K-L=(M)	614,855	1,078,074	37,054	3,304,888	805,338
施設・機械等の設備投資		0	0	0	0
農 業 負 債					
経 済 信 用	0	0	0	0	0
農 外 ・ 生 活 負 債	11,835,000	11,046,000	10,257,000	9,468,000	8,679,000
計	14,335,000	13,046,000	21,757,000	20,468,000	19,179,000

差引余剰がマイナスとなった場合は、計画全体を見直すか、資金運用計画で資金繰りが可能か確認します。

I 経営概況

II 飼養計画

III 収入・経費

IV 家計費

V 償還計画

VI 農家収支

⑧資金運用計画を確認しよう！

資 金 運 用 計 画

区 分		平成 2 7 年度 1年目	平成 2 8 年度 2年目	平成 2 9 年度 3年目	平成 3 0 年度 4年目
調 達	前 年 繰 越 (手 持 現 預 金)	500,000	1,187,948	819,885	3,704,665
	農 業 所 得	2,226,118	1,728,000	4,930,093	4,936,982
	農 外 所 得	0			0
	年 金	0			0
	被 贈 ・ 扶 助 等				
	減 価 償 却 費	2,901,430	2,344,287	2,344,287	1,122,857
	長 期 借 入 金	10,000,000	0	0	0
	内 訳 ス ー パ ー L 資 金	10,000,000			
		0	0	0	0
	固 定 資 産 処 分 等				
	補 助 金 等				
	合 計	15,627,548	5,259,485	8,144,265	9,764,503
運 用	投 資 (内 訳 下 記 参 照)	0	0	0	0
	出 資				
	家 計 費	3,140,000	3,140,000	3,140,000	3,140,000
	借 換 返 済				
	長 期 借 入 返 済	1,289,000	1,289,000	1,289,000	2,539,000
	内 訳 農 業 関 係	1,289,000	1,289,000	1,289,000	2,539,000
	租 税 公 課 諸 負 担	10,600	10,600	10,600	10,600
	資産購入・その他（内訳下記参照）	10,000,000	0	0	0
	合 計	14,439,600	4,439,600	4,439,600	5,689,600
次 期 繰 越		1,187,948	819,885	3,704,665	4,074,903

農業に使用出来る自己
資金を入力します。

差引余剰がマイナスとなった場合は、資金運用計画を作成し、次年度繰越金で資金繰りが可能か判断しましょう。